3. カードや絵本を利用した方法

幼児が、かなを覚えるための玩具として市販されているものに、“漢字カルタ”があります。犬の絵の裏に「犬」という文字があり、馬の絵の裏に「馬」という字のあるものです。

かなを覚えるのに比べて、漢字は、どんなに易しく、楽しく覚えられることでしょう。幼児にとっては、「犬」から「い」を、「馬」から「う」を抽出することは、大人が考えているほど簡単なことではありません。

正月の遊びに“いろはかるた”を買うと、正月のうちに、かなをすっかり覚えてしまうことは、ご経験の方もきっといらっしやることと思います。カルタは、文字を覚えるのに役立つ、一つの有力な方法です。

私は、「漢字カード」「漢字カルタ」を作り、すでに多くのご家庭で使っていただいております。

絵本の絵に即して教えるのも良いでしょう。ただ、今の絵本は、かなが使われていますので、これは見えないように、紙をかなの上に貼付けてください。そして、そのかなに関係なく、絵に相当する漢字を書入れるのです。

例えば、犬の絵のそばに「犬」と書入れ、電車の絵のそばに「電車」と書入れるのです。

絵本の内容は、動物や植物、玩具、家庭の生活を扱ったものが適当でしょう。もちろん、童話、物語など、幼児の関心を呼ぶものだったら、何でもよく、書入れる漢字も、子供の知っている言葉、とりわけよく使っている言葉を表した漢字が良いでしょう。

初めから、たくさん書入れないようにします。初めは、一ページに、一字か二字くらい。それも、目立つように、二～三センチメートル四方

㋙㋶㋰　**豆知識**

乗と載

乗という字は、「乗る」という時に使う。この字は、人が木に登っている姿を表した字で自動詞として使う。例外的に「車に子どもをのせる」という時は、「子どもが車に乗る」ということなので、「乗」の字を使う。

載という字は、「載せる」という時に使う。この字は、車に物をのせている様子を表した字で他動詞として使う。

くらいの白紙に漢字を書入れ、それを貼付けたほうがいいのです。子供に「おやっ」と思わせる工夫が大切です。

与えすぎは絶対禁物

親は、「漢字を教えよう」という気持を、出来る限り抑えてください。親というものは、良い上にも良かれかしと思い、適度ということを考えないで、子供に無理強いをして失敗します。

食べ物と同じで、「あれも食べさせたい。これも食べさせたい。」で、過食させ、反って病気にすることがよくあります。腹八分めと言い、控えめにすることが大切です。

絵本に貼付けたら、あとは放っておいたほうがいいのです。幼児は好奇心が強いので、貼られた漢字を見れば、きっと「お母さん、これなあに」と尋ねるはずです。

子供の質問に答えて教える、これが最も効果のある教え方です。たびたび申上げていますように、記憶の原理は“関心”です。幼児が関心を示して質問し、それに答えた場合は、そうでなくて教えた場合の、十倍も二十倍もの効果があります。

㋙㋶㋰

部首　包

勹は で人が物をだきかかえている形。巳はおなかの中の赤ちゃんの象形。よって包は“子供が腹の中につつまれている”形で“つつむ”こと。

【抱】　“手で包む”つまり“だきかかえる”こと。

【胞】　“赤ちゃんがおなかの中にいる”意味の包むに月を加えて、“胎児を包む肉膜”という意味。人は胞から生れるので「同胞」とは、同じおなかから生れた“兄弟”のこと。

【泡】　“空気を水で包んでいる”こと。

【砲】　石を包んでそれをはじき飛ばす武器のこと。これを「石ゆみ」と言い、大じかけなものが「大砲」。今では、火薬の力で鉄の弾丸を打ち出す武器の名前になった。